



おいしいそうな物を見ると、「つば」が出るのはなぜ

「つば」が出るのは味を知っているものだけ

わたしたちの口は、食べ物が入ると、消化を助けるために、唾液腺からどんどん「つば」を出します。

しかも、味を知っているものなら、食べなくても、見ただけで「つば」が出てきます。

おいしいなものを見ただけでも「つば」が出るのは、その食べ物がおいしいことを知っているからです。梅干しやレモンを見たときにも、同じように「つば」が出ますが、これも、梅干しやレモンが、すっぱいことを知っているからで、食べたことのない、味を知らないものを見ても、つばは出ません。このように、食べなくても、見ただけでつばが出てくるようなことを、条件反射といえます。

パブロフの実験

条件反射を発見したのはロシアのパブロフで、イヌを使った有名な実験をしています。その実験では、イヌに食べ物をあたえるたびに、いつも同じ音を聞かせていると、やがて食べ物をあたえないときでも、その音を聞かせるだけで、イヌの口の中に、つばがたまっていくということを確かめたものです。そして、このようなことを、条件反射と名づけました。
(監修・保志 宏)

